

Weekly-Report

C X 週間展望（6月7日～）

日産証券

調査課 菊川 弘之

ドル・円(1)

【先週レビュー】

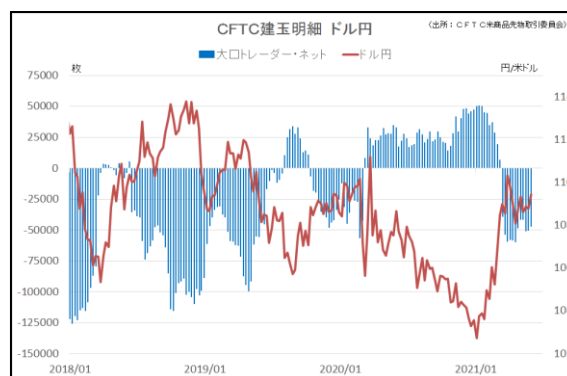
先週レポートで「マーケットは、早ければ年明けにもテーパリング開始、その前のFOMCや、8月のジャクソンホールなどで、出口戦略へ向けての地ならし」と言うのが市場コンセンサスになりつつある状況だ。

そうした中、注目なのが4日の雇用統計。～中略）。今回の予想値は、NFPは66.3万人増、失業率は5.9%への低下が期待されている。雇用回復傾向自体は継続という見方が広がっている。

一方、自動車部門は、世界的な半導体不足による減産状況は依然厳しいとみられ、産業機械など周辺産業への影響が大きく、予想を下回る可能性もある。

～中略）。週末は110円に乗せたものの、長い上ヒゲ形成。今のところ、3月高値を一気に抜けるほどの勢いはない。バーナンキショック時も、実際のテーパリングが開始された以降は金利低下、ドル円の上値も重かった」としたが、米連休明けには原油高を受けてドルが資源国通貨に対して下落し、円買い・ドル売りで始まったが、ドル円の下値は限定的。ユーロ圏の経済見通しの改善により、ECBは6月の会合でパンデミック緊急購入プログラム（PEPP）による債券購入ペースの減速を発表する可能性が高いと見られたことがユーロ買い・ドル売り要因となっていたが、これを出口戦略に着手と見なすべきではなく、そのような動きが、すぐに選択肢にあるという合図とも解釈すべきではなく、ECBは長期に渡る緩和維持の決意を繰り返し表明するという見方もあり、ユーロの上値は抑えられた。

米ADP雇用リポートでは、非農業部門雇用者数は前月から97万8000人増えた。週間新規失業保険申請件数は38万5000件と5週連続で減り、5月の米サプライマネジメント協会（ISM）の非製造業景況感指数は過去最高となった。良好な経済指標が相次ぎ、景気回復期待から米長期金利は3日に一時1.63%に上昇。ダラス連銀のカプラン総裁が3日、テーパリングについて「議論の開始は遅いよりは早いほうが良い」と発言したこともあり、110円台を回復した。



1
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

Weekly-Report

C X 週間展望 (6月7日~)

日産証券

調査課 菊川 弘之

ドル・円(2)

【週末のNY市場】

週末のドル円は、米雇用統計で雇用者数の伸びが市場予想を下回った。FRBが量的金融緩和の縮小を急がないとの見方が広がり、米長期金利が低下し、主要通貨に対してドルが売られた。

CFTC建玉明細(6/1 現在)は、47,115枚の売り越し。前週(50,156枚の売り越し)から縮小。

NYダウは反発。米雇用統計で雇用者数の増加ペースが加速したが、市場予想は下回った。金利低下で相対的な割高感が薄れたハイテクなど高PER(株価収益率)株が買われた。

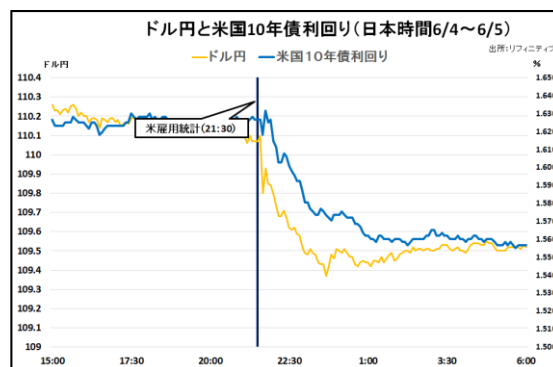
バイデン米大統領は4日、デラウェア州リホボスビーチで、底堅い内容となった5月の米雇用統計を「これは歴史的な進展であり、100年来の大危機から米経済を救い出す進展だ」と称賛し、「米国ほど急速に拡大している主要経済はほかにない。この成功は偶然ではなく、幸運のたまものでもない」とコメント。

【今週見通し・戦略】

欧州ではパンデミック緊急購入プログラム(PEPP)による債券購入ペースの減速観測が広がっている一方、ラガルドECB総裁など、こうした量的緩和縮小について牽制する当局者の声がユーロドルの上値を抑えている。10日のECB理事会では政策金利や金融政策に変更はないとみられる。

5月の米消費者物価指数(CPI)が注目。前回4月分の米CPIは前年比+4.2%と予想(3.6%)を大きく超える高水準となり、米金利上昇、ドル買いとなった。事前予想は前年比+4.2%、コア前年比が+3.0%。原油上昇もあり、エネルギー上昇傾向が継続。EIA(米エネルギー情報局)による全米全種平均のガソリン価格は前月から4.3%の上昇で、全体を押し上げるとみられる。

FOMC(6/15-16)では、物価見通しの引き上げが期待されるほか、各メンバーによる年末時点での政策金利見通しで、現状18名中7名となっている2023年末までの利上げを見込むメンバーが増えるようならドル買いにつながる可能性も。雇用統計が予想ほど強くはなく、ドットチャートなので大きな変更がなければ、引き続き、レンジ相場が継続。



Weekly-Report

C X 週間展望 (6月7日~)

日産証券

調査課 菊川 弘之

金標準先物(6/4 清算値:6,151円)(1)

【前週レビュー】

先週レポートで「早ければ年明けにもテーパリング開始、その前のFOMCや、8月のジャクソンホールなどで、出口戦略へ向けての地ならしと言うのが市場コンセンサスになりつつある状況だ。今後のシナリオを占う上で、市場参加者が意識しているのが「バーナンキショック」以降の値動き。実際のテーパリングが始まると、「知ったら終い」となるパターンが確認される。バーナンキショック時の値動きを、一つの参考として、現在は何の位置にいるか？想定外になるケースなら要因は何か？などを基に戦略・戦術を練りたい。



NY金は200日移動平均線に続き、心理的節目1900ドルを超えてきた。オシレーター系指標は、短期的な買われ過ぎ感を示唆しているものの、ADXは高水準でトレンドの勢いは強い。値幅調整ではなく日柄調整の可能性も。雇用統計などを受けた金利動向や、暗号資産の動きが引き続き焦点としたが、先週のNY金(8月限)は、インフレは一時的との見方やドル安を受けて堅調となり、1月8日以来の高値1919.2ドルを付けた後、株高一服をきっかけに利食い売りが出た。週末の雇用統計や、来週の欧州中央銀行(ECB)理事会でパンデミック緊急購入プログラム(PEPP)による債券購入ペースの減速を発表するか否かなどを見極めようと様子見ムードが強かった。

5月の全米雇用報告で民間部門雇用者数が97万8000人増と事前予想の65万人増を上回った。また米ISM非製造業総合指数(NMI)は64.0と前月の62.7から上昇し、過去最高を記録。米経済の回復を受けて、米金融緩和の縮小が早まるとの観測が浮上。米国債の利回りが上昇、ドル高を受けて、長大陰線の急反落となった。

Weekly-Report

C X 週間展望 (6月7日~)

日産証券

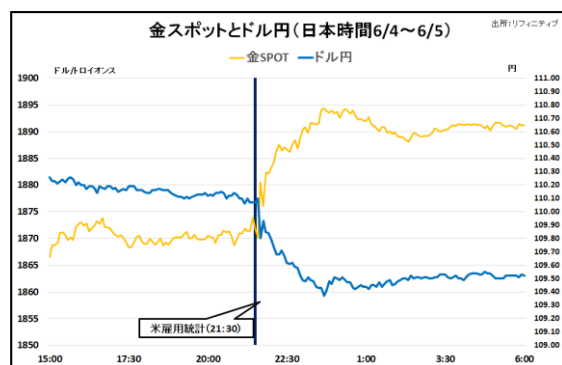
調査課 菊川 弘之

金標準先物(6/4 清算値:6,151円)(2)

【週末のNY市場】

週末のNY金(8月限)は、反発。
5月の米雇用統計で非農業部門の就業者数が前月比55万9000人増となり、事前予想の平均値67万5000人増を下回ったことで出口戦略観測が後退し、米長期金利低下、ドル安となったことで買い優勢となった。

CFTC建玉明細(6/1 現在)は、213,701枚の買い越し。前週(214,642枚の売り越し)から縮小。



【今週見通し・戦略】

ブレイナードFRB理事が、米国はFRBが掲げる完全雇用と2%の物価目標に向けて進展しているが、依然として根深い問題があり、FRBは早まって金融引き締めを開始すべきではないとの見方を示している中、雇用統計が事前予想ほど強くなく、今月のFOMCでも、慎重な姿勢が続くと見られることは、金にとっては支持要因。週末のNY金は200日移動平均線に支えられて、下ヒゲ形成。先週の金の調整はユーロ安がきっかけであったが、欧州中央銀行(ECB)理事会メンバーのクノット・オランダ中銀総裁は、欧州を含め世界経済が新型コロナウイルス禍による落ち込みから予想以上に早く回復しているという見方を示しており、ユーロ圏経済の改善を受けてECB理事会でパンデミック緊急購入プログラム(PEPP)による債券購入ペースの減速が発表されるか否かにも注目したい。今週から来週にかけて重要イベント(ECB理事会・G7首脳会議・NATO首脳会議・FOMC・米ロ首脳会談・イラン大統領選挙)が相次いでおり、それぞれの結果如何では、大きく動意付くかもしれない。

ロシアのシリアノフ財務相は3日、同国政府系ファンドのナショナル・ウェルス・ファンド(NRW)から完全に米ドル建て資産をなくし、ユーロ建てと人民元建て、さらに金のシェアを増やす方針を表明。1カ月内に資産構成の変更を見込んでいる。変更後は、ユーロ建てが40%、人民元建てが30%、金は20%。円建てと英ポンド建てが5%ずつ。中長期的にはロシアや中国などにみられる「ドル離れ」の動きが、金相場の大きなポイントになりそう。

4
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

Weekly-Report

C X 週間展望 (6月7日～)

日産証券

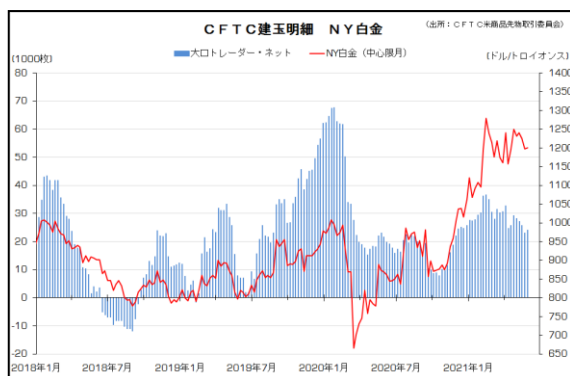
調査課 菊川 弘之

白金先物(6/4 清算値:4,275円)

【前週レビュー】

先週レポートで《～前略》。いずれも前年と比べると、需給タイト感は後退する内容で、現在の1200ドルを中心とした±100ドル程度の逆張り相場が継続しそう》としたが、先週のNY白金(7月限)は、

心理的節目1200ドルを挟んだ保合いが続いていたが、ADP全米雇用報告で労働市場の回復が示された事を受けた米金利上昇に伴うドル高や金急落を嫌気した。時間外取引の安値や複数の支持線を割り込んで一段安となり、3月25日以来の安値1149.0ドルを付けた。



【週末のNY市場】

週末のNY白金(7月限)は、小反発。日中取引開始後は早々に3月9日以来の安値となる1142ドルをつけたが、米雇用統計発表後にドル安、金、銀の反発を背景に急速に下値を切り上げ、プラスサイドに浮上した。

CFTC建玉明細(6/1現在)は、24,045枚の買い越し。前週(22,987枚の買い越し)から拡大。

【今週見通し・戦略】

一目均衡表の雲のねじれでのトレンド変化に注目。心理的節目1100ドル～1280ドルの逆張りが続いているが、下限を割り込むと、週足ベースでは、ダブルトップが完成する。

今週から来週にかけて重要イベント(ECB理事会・G7首脳会議・NATO首脳会議・FOMC・米口首脳会談・イラン大統領選挙)が相次いでおり、結果如何では、大きく動意付く。



Weekly-Report

C X 週間展望 (6月7日~)

日産証券

調査課 菊川 弘之

ゴムRSS3(6/4 清算値:243.2円)

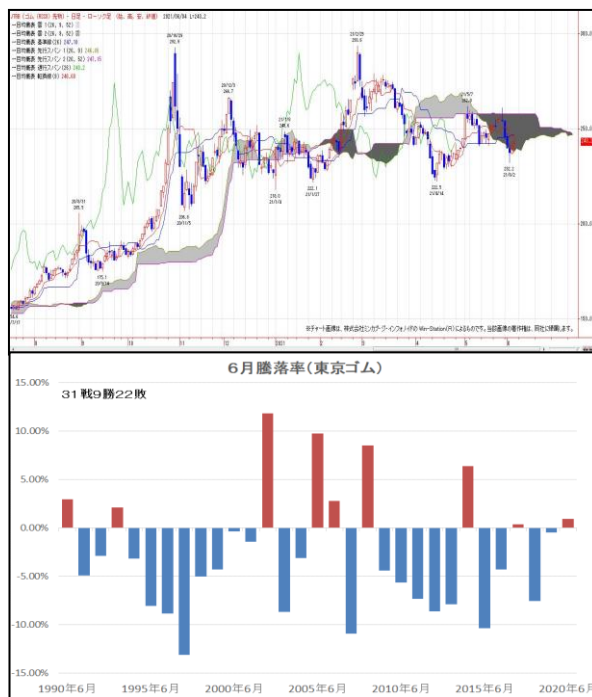
【先週レビュー】

先週レポートで《中国の証券監督管理委員会(証監会)は28日、コモディティー価格の変動を注視しており、先物市場の不正行為を取り締まっていると表明。~中略)。

投機や買いだめを取り締まる意向を示している。中国は、多くの商品の最大需要先で、商品市場に制限を加えれば、商品価格抑制につながる可能性には注意。

国内は新規入着・在庫増加により期近は売られた一方、期先は逆鞘・割安を背景に買われ、当先逆鞘は同鞘化している。産地ではウィンタリ

ング明け近いが、コロナ拡大による労働者や原料の不足が懸念されている。短期的には、28日の上ヒゲ高値(261円)を終値ベースで、抜けるか否かが焦点》としたが、先週のRSS3号は、前週の調整の流れを引き継いで始まった後、マレーシアでのロックダウン・タイゴム手袋製造工場でのコロナ集団感染発生と工場稼働停止等によりラテックス価格が急落、原料調達が短期的に減少するとの思惑から上海ゴムの急落に追随。232.2円(6/2安値)まで続落。4月安値~5月高値までの上昇に対する61.8%押しを達成した。週末にかけて、110円台回復の円安ドル高進行もあり、自律反騰の動きとなった。



【今週見通し・戦略】

産地ではウィンタリング明け近いが、コロナ拡大による労働者や原料の不足が懸念されている。今年はインドと同じように、春先から産地のコロナ感染が再拡大し、減産期以外の供給リスクも材料視されている。国内は当先逆鞘縮小一服。国内市場の割安は継続しているが、過去の月間騰落傾向では、タイの減産期終了に伴い6月は弱気優勢な時間帯。コロナ収束方向に動くと、戻りは売られやすい。

Weekly-Report



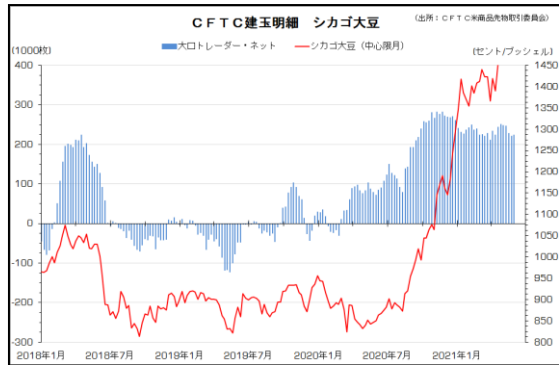
C X 週間展望（6月7日～）

調査課 菊川 弘之

一般大豆先物(6/4 清算値:50,000 円)

【先週レビュー】

先週レポートで「記録的な低在庫を背景とした需給逼迫警戒感から一代高値を連日更新していたが、生育は良好なスタートを切っており、修正入りとなった。ただ、コーンの急反騰もあり、心理的節目1500セント水準では、一旦買い戻しが入った。天候リスクが最も警戒されるのは8月であり、根本的な需給には危機感が強い。1500セント水準での値固めか？」としたが、先週のシカゴ大豆（7月限）は、米産地での高温乾燥やコーン市場の堅調な足取りを手掛かりにした買いが入るなか、5月18日以来の水準まで急騰する場面も見られたが、輸出検証高の低迷もあって騰勢は続かなかった。足元の米産地の天気が作付を終えた大豆の生育に適していることが弱材料視された。大豆油が反落に転じたことや、コーン市場の軟調な足取りも弱材料となった。



週末のシカゴ大豆（5月限）は、急反発。週間輸出成約高は引き続き低調だったが、コーンベルト北部を中心に高温乾燥懸念が警戒されていることで再び買い意欲が強まった。CFTC建玉明細（6/1 現在）は、224,076枚の垂買い越し。前週（221,055枚の買い越し）から拡大。

週末のシカゴ大豆（5月限）は、急反発。週間輸出成約高は引き続き低調だったが、コーンベルト北部を中心に高温乾燥懸念が警戒されていることで再び買い意欲が強まった。CFTC建玉明細（6/1 現在）は、224,076枚の垂買い越し。前週（221,055枚の買い越し）から拡大。

【週間純輸出制約高（5月27日までの一週間）】

19万8100トン（事前予想レンジ：－10万～60万トン）

【週間作物進捗報告（5月30日までの週）】

作付け：84%（前週75%、前年74%、平年67%）

発芽：62%（前週41%、前年50%、平年42%）

【今週の見通し・戦略】

シカゴは三尊の右肩を作る動きだが、天候相場の天王山と言われる独立記念日（7/4）～大豆の最終生産に大きな影響を与える8月にかけて、産地の天候次第で、上値リスクは残る。

Weekly-Report

C X 週間展望（6月7日～）

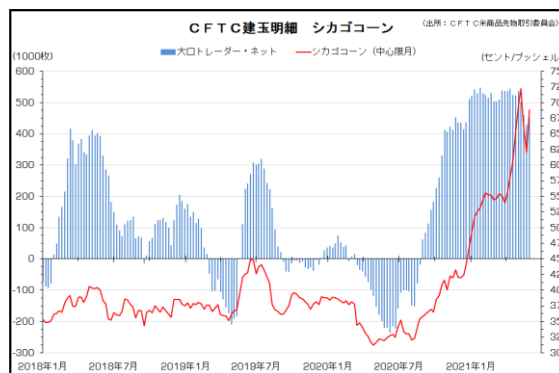
日産証券

調査課 菊川 弘之

とうもろこし先物(6/4 清算値:35,210円)

【先週レビュー】

先週レポートで「市場の関心は作柄に移り、これまで以上に産地の天候に敏感になる」としたが、先週のシカゴは、高温乾燥に見舞われたブラジルのサフリーニャコーン生産量予測の下方修正に加え、米産地でも高温乾燥予報が発表されたことでイールド低下懸念が強まった。週間輸出検証高の強気な内容も買いを支援するなか、一時、ストップ高となる40セント高を付けたが、米産地で降雨が発生し、気温が低下していることで目先の順調な生育見通しが強まったことで戻りを売られた。



週末のシカゴコーン（7月限）は、急反発。週間輸出成約高は前週から大きく減少したものの予想レンジ内で、コーンベルト北部の高温乾燥懸念がクローズアップされた。コーンベルト北部では今後5日間、全くあるいはほとんど降雨はない見込み。CFTC建玉明細（6/1 現在）は、452,376枚の買い越し。前週（428,426枚の買い越し）から拡大。

【週間純輸出制約高（5月27日までの一週間）】

97万0600トン（事前予想レンジ：10万～130万トン）

【週間作物進捗報告（5月30日までの週）】

作付け：95%（前週90%、前年92%、平年87%）

発芽率：81%（前週64%、前年76%、平年70%）

「良」以上：76%（前週 — 前年74%）

「劣」以下：4%（前週 — 前年4%）

【今週の見通し・戦略】

10日にUSDA需給報告。前月予測で新穀の期末在庫率は10.2%。旧穀は8.5%。新穀在庫率が10%以下に下方修正されるか否かに注目。作柄で「優」「良」合計が、豊作の目安と言われる70%超を維持するか否かにも注目。

Weekly-Report

C X 週間展望（6月7日～）

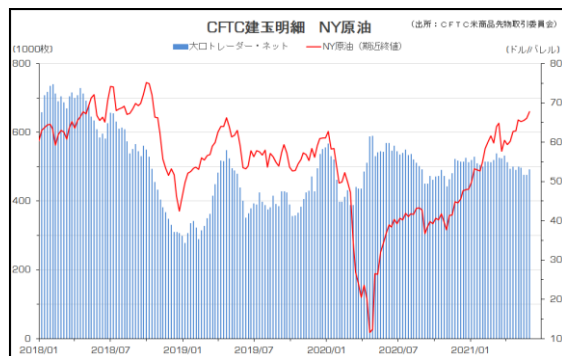
日産証券

調査課 菊川 弘之

東京原油(1)

【先週レビュー】

先週レポートで「6月1日の石油輸出国機構（OPEC）プラス会合と、イラン核合意に対する米国の復帰を巡る協議の進展が目先は二大焦点となる。」～中略）。



イラン核合意の復活を巡る協議は続いており、合意復活となればイラン産原油の禁輸が解除され、世界の原油需給が緩むとの警戒感が上値を抑えている。イラン核合意が修復された後、イランは増産するとみられているものの、OPECプラスは合意した増産を続ける見通し」としたが、先週のNY原油（7月限）は、5月末のメモリアルデーから始まる米ドライブシーズンを迎え、ガソリン需要が高まるとの観測が広がった。調査会社ガスバディによると、先月30日（日曜）のガソリン需要は直近4日間の日曜と比較して9.6%増となった。米疾病対策センター（CDC）によると米国の成人で2回接種した人の割合は5割を超えた。主要産油国の段階的な減産緩和の方針継続や、米ISM製造業景況感指数が前月から上昇し、市場予想も上回ったことなども相場を支えた。

石油輸出国機構（OPEC）プラス閣僚会合では、4月に決定した日量210万バレルの段階的な減産縮小を継続することを確認。米国が対イラン制裁を解除し、イランが生産量を拡大する見通しとなっているが、年後半にかけて需要が上向くとみられている中でOPECプラスも予定通り、7月にかけて増産を続ける。

コロナ禍を経て主要国経済が正常化に向かっており、石油需要がさらに回復する見通し。OPECプラスの増産以上に需要が増加し、需要超過が続くと期待されている。米エネルギー情報局（EIA）週間在庫統計で、製油所稼働率がさらに回復するなかで原油在庫が減少した一方で、製品在庫が増加したことが重しとなったが下値は限定的。強気の米マクロ経済指標を受けた米景気回復期待からエネルギー需要が増えるとの買いが入った。

【石油掘削リグ稼働数（米石油サービス会社ベーカー・ヒューズ）】

4日までの1週間の国内石油掘削リグ稼働数は前週と同じ359基。前週まで4週連続で増加していた。天然ガス掘削リグの稼働数は1基減の97基。減少は4週連続で、2020年5月以来の長さとなった。

Weekly-Report

C X 週間展望 (6月7日~)

日産証券

調査課 菊川 弘之

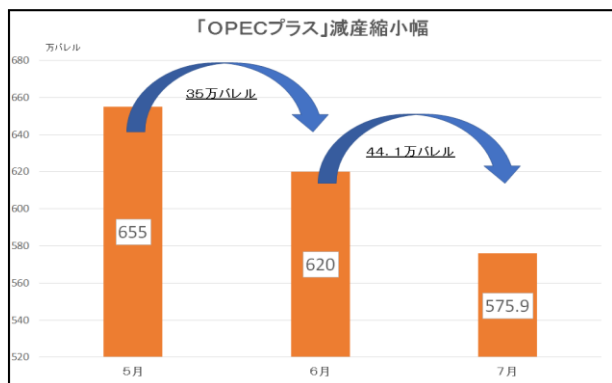
東京原油(2)

【週末のNY市場】

NY原油(8月限)は、反発。一時は1バレル69.76ドルと期近物として2018年10月以来の高値を付けた。前日の米エネルギー情報局(EIA)週報での原油在庫の減少などが再び蒸し返された。雇用統計を受けた長期金利低下・米株高も好感された。

6月1日の石油輸出国機構(OPEC)プラス会合は、4月の合意を踏襲して、6月と7月の増産を決定した。次の7月1日の会合で8月以降の生産を決定する。

CFTC建玉明細(6/1現在)は、491,297枚の買い越し。前週(475,490枚の買い越し)から拡大。

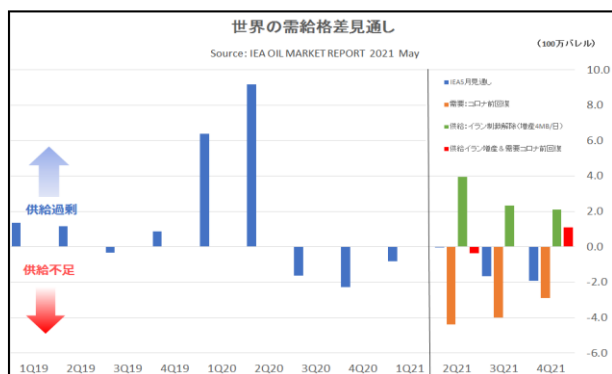


【見通し・戦略】

6月1日の「OPECプラス」会合では、4月に合意した段階的減産枠の縮小(つまり増産)を踏襲することで合意。また、イラン核合意に対する米国の復帰を巡る協議に関しては、両国の間でこれまで5回の間接協議が行われたことが報じられており、大詰めに入ってきた。

6月18日のイラン大統領選挙前に、米国の核合意復帰、イラン制裁解除となるか否かが焦点。イスラエルでは、ネタニヤフ首相の退陣が決まりそうで、対イラン・対パレスチナの動きにも要注意。

アフターコロナでの需要回復と、イラン核合意に対する米国の復帰に伴うイラン産原油増産の綱引き相場。



Weekly-Report

C X 週間展望 (6月7日～)

日産証券

調査課 菊川 弘之

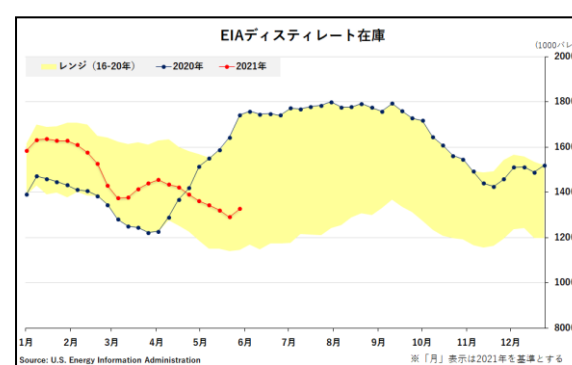
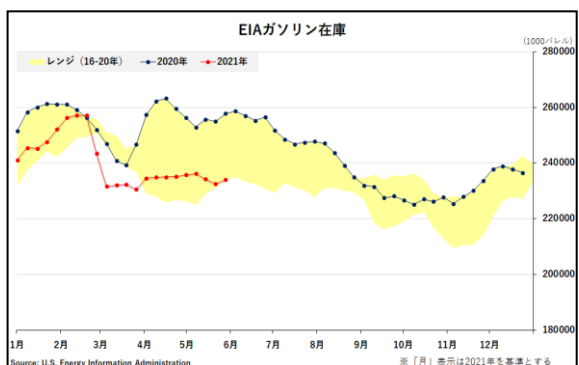
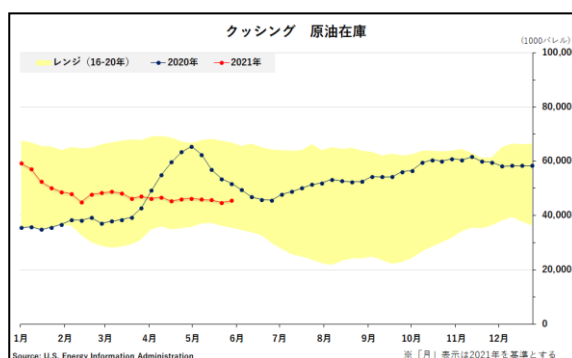
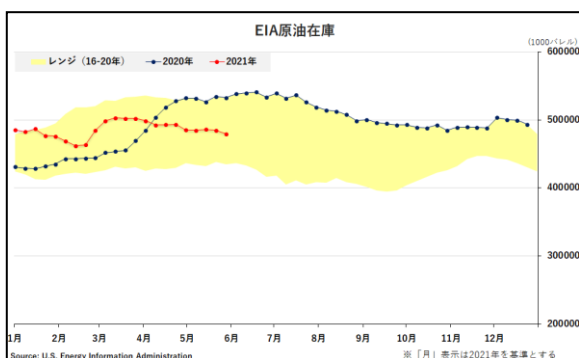
東京原油(3)

【EIA米週間在庫(エネルギー情報局)】

前週比

原油 4億7927万バレル
 クッシング 4554万バレル
 ガソリン 2億3398万バレル
 留出油 1億3280万バレル

507万9000バレル減少
 78万4000バレル増加
 149万9000バレル増加
 372万バレル増加



【石油連盟週報】

石油連盟週報(23日～29日)によると、ガソリンの週末在庫は、前週比9.1%増の227万3509キロリットル。灯油在庫は2.9%増の156万2734キロリットル。週間原油処理量は8.2%増の242万0473キロリットル。推定出荷量は、ガソリンが11.8%減の59万4951キロリットル。灯油が39.5%減の7万1338キロリットル。

Weekly-Report



C X 週間展望 (6月7日~)

調査課 菊川 弘之

【週間行事予定 (6/7~6/11)】

日付	時刻	国名	対象	経済指標・行事予定	前回
6月7日(月)	15:00	ドイツ	4月	絨工業受注(前月比)	
	15:00	ドイツ	4月	絨工業受注(前年比) 季調値	29.5
	15:00	ドイツ	4月	消費財 季調値	116.5
	16:30	英国	5月	ハリファックス 住宅価格(前月比)	1.4
	16:30	英国	5月	ハリファックス 住宅価格(前年比)	8.2
	17:30	ユーロ圏	6月	ユーロ圏投資家センチメント 指数	21
		中国	5月	輸出(前年比)	32.3
		中国	5月	輸入(前年比)	43.1
		中国	5月	貿易収支(USD)	42.86(十億)
		中国	5月	人民元建て輸出	22.2
		中国	5月	人民元建て輸入	32.2
		中国	5月	人民元建て貿易収支	276.50(十億)
6月8日(火)	0:00	米国	月31日, 週	週間穀物輸出検証高	
	8:50	日本	Q1	国内総生産(GDP) デフレーター 2次速報値(前年比)	-2.4
	8:50	日本	Q1	国内総生産(GDP) 年率 2次速報値(前期比)	-5.1
	15:00	ドイツ	4月	絨工業生産(前月比)	2.5
	15:00	ドイツ	4月	絨工業生産(前年比) 季調値	4.87
	18:00	ドイツ	6月	ZEW 景気期待指数	84.4
	18:00	ドイツ	6月	ZEW 現況指数	-40.1
	18:00	ユーロ圏	Q1	就業者数 全体 改定値	157.441(百万)
	18:00	ユーロ圏	Q1	国内総生産(GDP) 改定値(前期比)	-0.6
	18:00	ユーロ圏	6月	ZEW 景気期待指数	84
	21:30	米国	4月	貿易収支(USD)	-74.4(十億)
	21:30	米国	4月	財貿易収支	-85.2(十億)
6月9日(水)	23:00	米国	4月	JOLTS 求人件数	8,123(千)
	5:30	米国	月31日, 週	API週報	
	8:50	日本	5月	マネーサプライ M2	1,160,505(兆)
	8:50	日本	5月	広義マネー	1,953,600(兆)
	10:30	中国	5月	生産者物価指数(PPI)(前年比)	6.8
	10:30	中国	5月	消費者物価指数(CPI)(前年比)	0.9
	15:00	ドイツ	4月	輸出(前月比) 季調値	1.2
	15:00	ドイツ	4月	輸入(前月比) 季調値	6.5
	15:00	ドイツ	4月	貿易収支(EUR) 季調値	14.30(十億)
	15:00	ドイツ	4月	経常収支 原数値	30.20(十億)
	23:00	米国	4月	卸売在庫(前月比)	0.8
	23:30	米国	月31日, 週	EIA 週間原油在庫	
6月10日(木)	8:01	英国	5月	RICS 住宅価格指数	75
	8:50	日本	月31日, 週	対内中長期値投資	-30.10(十億)
	8:50	日本	月31日, 週	対外株式投資	129.40(十億)
	8:50	日本	5月	企業物価指数(前月比)	0.7
	20:45	ユーロ圏	6月	ECB リファイナンス金利	0
	20:45	ユーロ圏	6月	ECB 預金金利	-0.5
	21:30	米国	5月	コア消費者物価指数(CPI)(前年比) 原数値	3
	21:30	米国	5月	消費者物価指数(CPI)(前月比) 季調値	0.8
	21:30	米国	月31日, 週	週間穀物輸出成約高	
	21:30	米国	月31日, 週	新規失業保険申請件数	
	21:30	米国	月24日, 週	継続失業保険受給総数	
	23:30	米国	月31日, 週	EIA 週報	
6月11日(金)	---	---	---	OPEC月報	
		中国	5月	社会融資総量	1.850(兆)
		中国	5月	マネーサプライ M2(前年比)	8.1
		中国	5月	人民元建て新規融資	1.470(兆)
		中国	5月	人民元建て融資残高(前年比)	12.3
		ユーロ圏		ECB理事会	5月
	1:00	米国	---	USDA需給報告	
	4:30	米国	前週分	OFTC建玉明細	
	15:00	英国	4月	国内総生産(GDP) 予測値(前年比)	1.4
	15:00	英国	4月	絨工業生産(前月比)	1.8
	15:00	英国	4月	製造業生産(前月比)	2.1
	15:00	英国	4月	貿易収支(GBP)	-11.71(十億)
	23:00	米国	6月	ミシガン大 消費者信頼感指数 速報値	82.9
	18:00	---	---	IEA月報	
				G7サミット(英国、~13日)	

(※) 発表日時は日本時間

発表日時は作成段階のものであり、予告なしに変更される場合があります。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

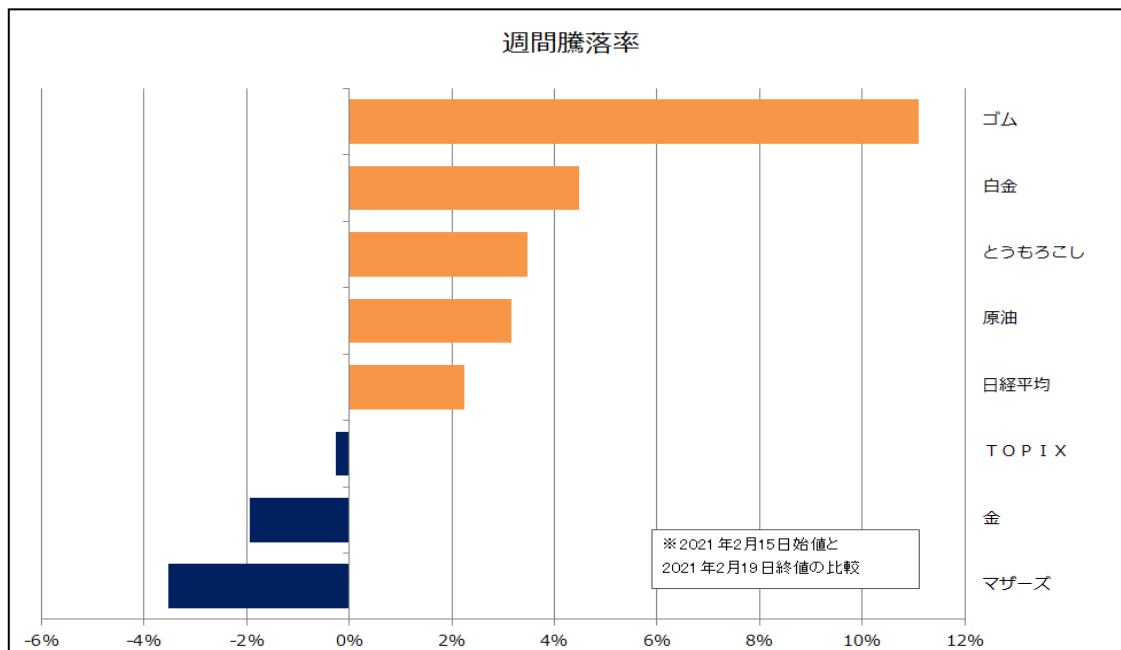
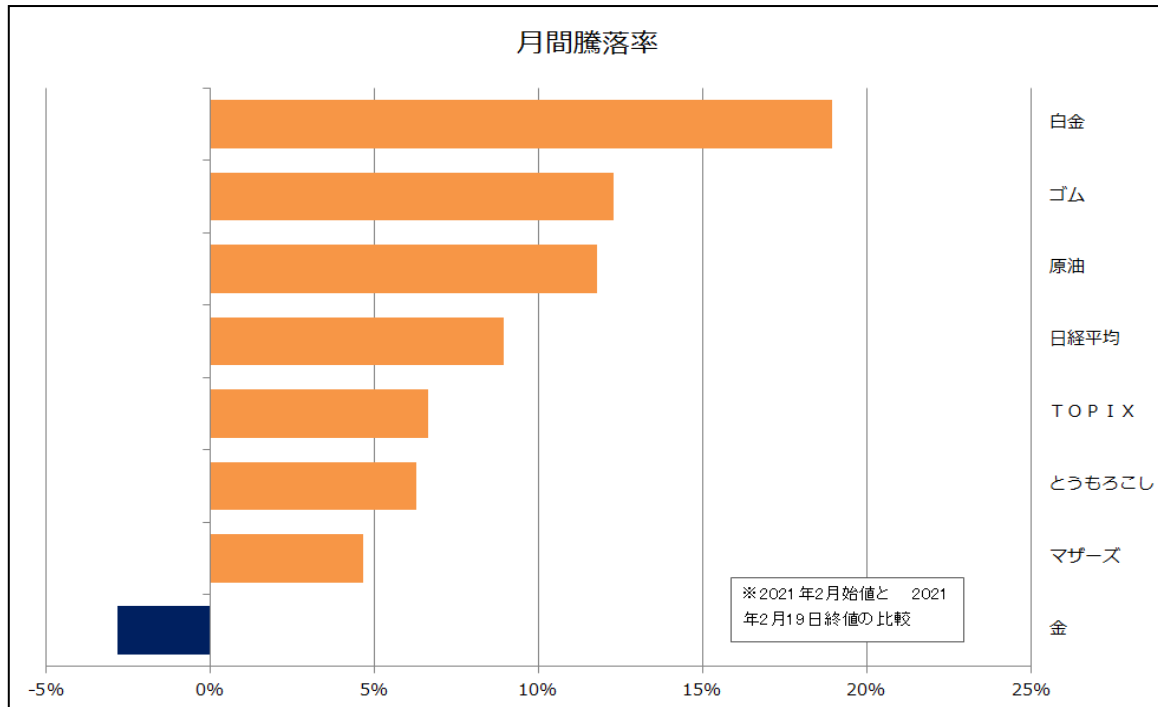
Weekly-Report

C X 週間展望 (6月7日~)


日産証券

調査課 菊川 弘之

【騰落率(月間・週間)】



【留意事項】

弊社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品等ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料等及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

<商号等> 日産証券株式会社（〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-38-11）

関東財務局長（金商）第 131 号 金融商品取引業者 商品先物取引業者

<加入協会> 日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、弊社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。内容は、正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い致します。